

此等の積の如くんば、天竺・漢土に於て仏法を失せること勿論なり。問うて云く、月氏・漢土に於て仏法無きことは之を知れり。東西北の三州に仏法無き事は何を以て之を知る。答えて云く、法華經の第八に云く、「如来の滅後に於て閻浮提の内に、広く流布せしめて断絶せざらしめん」等云云。内の字は三州を嫌う文なり。

問うて曰く、仏記既に此の如し。汝が未来記は如何。答えて曰く、仏記に順じて之を勘うるに既に後五百歳の始めに相当れり。仏法必ず東土の日本より出ずべきなり。其の前相に必ず正・像に超過せる天変地天之有るか。所謂仏生の時、転法輪の時、入涅槃の時、吉瑞・凶瑞共に前後に絶たる大瑞なり。仏は此れ聖人の本なり。経々の文を見るに、仏の御誕生の時は五色の光氣四方に遍くして夜も昼の如し。仏御入滅の時には十二の白虹南北に互り、大日輪光無くして闇夜の如くなりし。其の後正・像二千年の間、内外の聖人生滅有れども此の大瑞には如かず。而るに去ぬる正嘉年中より今年に至るまで、或は大地震、或は大天変、宛も仏陀の生滅の時の如し。当に知るべし、仏の如き聖人生れたまわんか、滅したまわんか。大虚に互りて大彗星出ず、誰の王臣を以て之に対せん。大地を傾動して三び振裂す、何れの聖賢を以て之に課せん。当に知るべし、通途世間の吉凶の大瑞には非ざるべし。惟れ偏に此の大法興廢の大瑞なり。天台云く、「雨の猛きを見て竜の大なるを知り、華の盛りなるを見て池の深きを知る」等云云。妙楽云く、「智人は起を知り、蛇は自ら蛇を識る」等云云。日蓮此の道理を存じて既に二十一年なり。日來の災、月來の難、此の兩三年の間の事、既に死罪に及ばんとす。今年今月方に一も身命を脱れ難きな